



# きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

## 形を整える

旭町小学校長 道山 正史

この時期の樹木は緑を増して、枝や葉は日に日に繁茂します。特に広葉樹は、梅雨が終わり真夏を迎える頃には、葉や梢が生長して幹を覆い隠すようになります。正門から坂道を上った左側にあるヤマモモの実も鳥が食べきれないほど、それこそ鈴なりになりました。やがて庭木の場合には、夏の終わり頃から秋口にかけて、徒長した枝葉を剪定します。これは樹木の形を整えるだけでなく、日当たりや風通しを良くして、さまざまな病害虫から守り、丈夫な庭木を育てる役割を果たします。

樹木に限らず、形を整えることやものごとの順序性をわきまえることは、私たち人間にとっても極めて大切なことです。その年代で身につけておくべき言葉遣いや場所をわきまえた身だしなみ、行動の仕方など、その時々にしつけておかなければなりません。小学生の時に身につけなかったというので、中学生や高校生になってからしつけようとしてもなかなかうまくいかないのです。すなわち発達課題と適時性は密接な関係にあります。

最近はこちらかということ躰や形を整えることが疎んじられる雰囲気がありますが、幼児期から、個性の尊重と自分勝手な言動を区別することなく許容して養育すれば、躰を身に付けることは困難になります。子供たちの育ちにさまざまな歪みが生じ、育ちがうまくいっていないと言われることがあるのは、我々大人が躰をしっかりとっていないということと同義なのだと思います。

形よりも中身が大事という風潮があり、子どもの「自ら」を大事にした指導だけが重視されれば、社会性の育成を図るのは困難です。未熟な子どもの意思を尊重するといって躰を怠れば、子供たちの身なりや言葉遣い、さらには礼儀作法や規範感覚の崩れを生み出します。子供が勝手気ままに生きようとすることに意図的な規制や強制を加えることなしに、分別のある大人へと成長させることは、はなはだ難しいのです。